

目標：収量 200kg/10a 以上、品質 2 等級以上

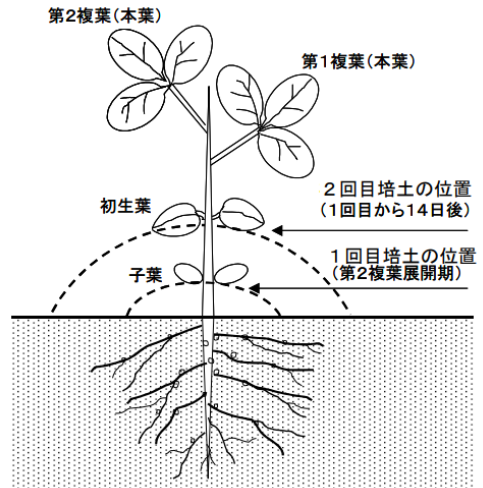
中耕・培土は遅れずに実施、梅雨前に排水溝の点検を！

- － 重点技術対策 －
- 生育促進・雑草防除・倒伏防止を図るため、中耕・培土は2回以上実施する
  - 中耕・培土による畦間の溝は、排水溝や明渠に確実に連結して排水を促進させる
  - 帰化アサガオ類などの難防除雑草は、培土と除草剤の体系防除を実施する

## 1 中耕・培土

### (1) 中耕・培土の効果

- ①雑草防除：雑草を土に埋没させる
- ②根系の発達：培土で覆われた茎から不定根を発生させる
- ③倒伏防止：土と不定根で茎基部を支える
- ④根圏の改善：土壌表層の通気性を改善させ、地力発現と根粒菌の着生を促す
- ⑤表面排水：排水溝につなげた明渠まで畦間を連結すると迅速に排水できる



### (2) 中耕・培土の方法

培土の実施時期・位置のめやす

	実施時期	培土の位置	注意点
1回目	第2複葉展開期頃 (播種後 20～25 日頃)	子葉節まで	梅雨時期であるため作業が遅れないように注意
2回目	1回目の2週間後頃 (播種後 35～40 日頃)	初生葉節まで (高さ 15 c m 程度)	開花始期 (7月 20 日頃) までに実施する

## 2 追肥

湿害による葉の黄化や生育不良などの症状が見られたら、中耕・培土等により排水を促すとともに、速効性肥料を窒素成分で10 a 当たり 1～3 kg 追肥する。

## 3 除草剤による雑草防除

- ・中耕・培土で雑草が抑えきれない場合は、雑草生育期の茎葉処理除草剤で防除する。
- ・降雨等で培土が遅れる場合は、除草剤を先に使用し、雑草防除が遅れないようにする。
- ・帰化アサガオ類の防除には除草剤の体系処理が必要である。

【難防除雑草体系処理の例】

	大豆播種後	出芽揃期～初生葉展開期	本葉2葉期～3葉期	本葉4葉期～5葉期
慣行体系	土壌処理	—	—	茎葉散布 (ベンタゾンナトリウム塩＋キザロホップエチル)
難防除体系 例①	除草剤	—	茎葉散布 (フルチアセットメチル)	
難防除体系 例② (土壌処理剤の効果が低い時)	(土壌処理除草剤)	茎葉散布 (イマザモックスアンモニウム塩)		

- ※ 雑草の発生状況によってはフルチアセットメチルとベンタゾンナトリウム塩＋キザロホップエチルの散布時期を入れ替えてもよい。
- ※ ただし、有効成分は一例。